

平成22年度 一般会計当初予算説明資料

6款 農林水産業費

2項 畜産業費

畜産課(内線:7831)

2目 畜産振興費

(単位:千円)

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) 飼料米利用拡大事業	6,800	0	6,800				6,800	
トータルコスト	10,027千円 (前年度 0千円) [正職員:0.4人]							
主な業務内容	飼料米の生産・利用を普及させるための協議会の開催 採卵鶏以外での給与実証及び畜産物の有利販売の検証							
工程表の政策目標(指標)	—							

事業内容の説明

1 事業の目的・概要

平成21年度、家畜飼料のトウモロコシに替わる原料として飼料米の生産、流通、給与までの仕組みづくりを行った。[平成21年度飼料米生産・利用実証モデル事業(農林業緊急プロジェクト)で実施]

このシステムを普及・定着させるため、畜産農家と稲作農家のマッチング機能を果たす協議会の開催を行うとともに、採卵鶏以外の豚等への給与実証や畜産物の有利販売に向けた取り組みに対して助成する。

2 主な事業内容

- ・事業主体 飼料米を利用する畜産農家
- ・実施期間 平成22年度から平成23年度まで(2年間)
- ・内 容

対 象	取 組 規 模	助 成 額
豚等での飼料米の利用で必要となる経費(粉碎経費等)	畜産農家2戸 飼料米140トン(23.3ha)	(140トン×15,000円/トン) 2,100千円
飼料米の保管に要する初期経費(保管料、保管バック等)	畜産農家2戸 飼料米140トン(23.3ha)	(140トン×15,000円/トン) 2,100千円
畜産物の有利販売のための経費(PR、成分分析等)	畜産農家4戸 飼料米260トン(43.3ha)	(260トン×10,000円/トン) 2,600千円
合 計		6,800千円

3 これまでの取組状況、改善点

平成21年度において飼料米を生産し、家畜へ与えるまでの仕組みづくりをモデル実証した。

畜産農家が、家畜飼料の原料となるトウモロコシに替えて飼料米の利用に踏み切る場合、保管袋等の新たな経費が必要となるとともに、畜産物の有利販売については、始めたばかりなので、消費者の認知度が低く、定着させるための取り組みが必要であることが分かった。

飼料米の生産・利用を普及・定着させていくため、畜産農家と稲作農家のマッチング機能を果たす協議会を開催するとともに、採卵鶏以外の豚等への給与実証や畜産物の有利販売に向けた取り組みを支援する。